

緊急時対処法

マニュアル

意識不明時/嘔吐/熱中症発症後の対処について

第五期安全プロジェクト

目次

【共通項目】

本冊子の取扱いについて… 2 ページ

緊急時の連絡について… 3 ページ

回復体位について… 4 ページ

【症状別の対処法】

意識不明時… 5 ～ 8 ページ

嘔吐… 9 ～ 13 ページ

熱中症・脱水症状の発症後… 14 ～ 19 ページ

【本冊子の取扱いについて】

本冊子は安全を最優先事項として、作業中に健康にかかわる不測の事態により緊急の対処が求められた際、その場において適切に対処し事態の悪化防止と人命救助の補助を行うための参考資料です。現場監督者・責任者は本項目を熟読し、必ず救急箱のそばに保管してください。

本冊子には各事業所にて記入が必要な欄があります。

あらかじめ調べて記入したうえでご使用ください。

【緊急時の連絡先について】

傷病者の発見者は、自身で緊急通報等を行わず、必ず緊急連絡系統図等に従い指定の連絡先に連絡すること。また、各項目で緊急連絡を必要とする場合は以下の連絡先を参照し適切な連絡を心がけること。

【現場責任者】

電話番号

【事務所・所長】

電話番号

【警備・守衛】

電話番号

※各事業所にて連絡先を確認し、所定の欄に記入してください。

【回復体位について】

症状の種類にかかわらず、傷病者の安静を確保するためには傷病者に以下の体位をとらせる必要がありますが、強制ではないことに留意してください。

各項目で回復体位を必要とされた際は以下の項目を参照してください。

【腹臥位(ふくがい)】

- ・ 腹ばいで顔を横に向ける
- ・ 嘔吐時や背中に負傷した際に適している

【回復体位（側臥位(そくがい)）】

- ・ 横向きに寝かせ、下あごを前に出して気道を確保し、 両肘を曲げ上側の手の甲を顔の下に入れ上側の膝を約 90 度(直角)に曲げて後ろに倒れないようにする体位である
- 呼吸をしやすくする体位
- 吐いた物を口から取り除きやすい
- 窒息防止に有効である



←回復体位

腹臥位→



意識不明時の対応

①フローチャート

②心肺蘇生法

③AED の場所の補足

①フローチャート

倒れている対象者を発見



傷病者の意識の有無を確認

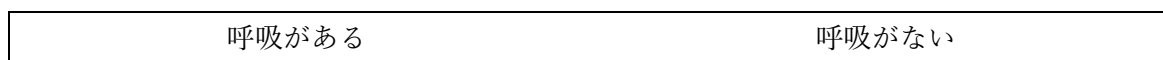
大声で呼びかけ体をゆする



呼びかけに反応がない場合は周囲の人を集め緊急連絡やAEDの用意を手分けして行う



胸と腹部の動き（呼吸により上がったり下がったりするか）を10秒以内で集中的に観察



気道確保を行い

必要であれば回復体位にして
救急隊の到着まで保温



心肺蘇生を開始（次のページ参照）

②心肺蘇生法

【心肺蘇生法・胸骨圧迫】

①胸骨の下半分、胸の真ん中に手の付け根を置き両手を重ねて圧迫する

②肘を真っ直ぐ伸ばし、100～120回/分の速さで継続出来る範囲で強く、圧迫を繰り返す

5秒の間に8回以上なら100回/分以上を満たしている。

③継続出来る範囲で「強く」が良い。押したらしっかりと胸を元に戻す。

※訓練を受けていない救助者は自動体外式除細動器(AED)、または救急隊到着まで胸骨圧迫だけ続ける。

・極力ほかの人の協力を得る。秒単位で123…と数えてもらう等でもよい。

・可能であれば協力者に1分間だけでも代わってもらう。

「強く早く」を維持するためにも交代は必要である。

・胸骨圧迫を中断する時間は最小限にする。

③AED の場所の補足

AED を必要とする状況になった場合、心肺蘇生を行う人とは別の人が AED の用意をしなければなりません。

多くの方が日ごろから設置場所を意識しなければならないため下記の設置状況を定期的に周知する必要があります。

参考写真

備考・補足

※各事業所にて場所を確認の上記載をお願いします。

嘔吐時の対処

吐き気・嘔吐は何らかの形で嘔吐中枢が刺激されることで起こります。刺激の要因には様々なものがありますが、胃腸の病気など何らかの病気が原因である可能性もあります。吐き気・嘔吐の程度や、それに伴う症状によっては治療が必要な場合があります、注意が必要です。以下の手順を参考に応急手当を行い、対応をお願いします。

①フローチャート

②汚物の処理

③傷病者の水分補給

① フローチャート



背中をさすって、吐きたいだけ吐かせる

※水分補給と吐いたものの処理については次ページ



衣服をゆるめ、吐いたもので窒息しないよう
顔を横向きにして寝かせる(4ページ の側臥位)



嘔吐が治ったら思い当たる原因を訪ね、
少しでもおかしいと思ったら指定の連絡先へ
連絡



状態をよく観察

以下の4つのうち、どれか1つでもあればすぐに現場
責任者か指定の連絡先へ連絡

- ・嘔吐が止まらない
- ・麻痺がある
- ・胸が痛い激しい腹痛が続く
- ・呼吸の状態がおかしい
- ・意識が混濁している

意識がない、または非常に反応が鈍くなってきたら心肺蘇生法を救急車が来るまで続ける。

②汚物の処理

吐き気・嘔吐の原因には様々なものがあります。また多くの場合他の症状を伴って起こり、それが原因であることが考えられます。

- ・ 腹痛や発熱、下痢などの症状を伴う ⇒胃腸炎など胃腸の病気

- ・ ろれつが回らない、しびれや麻痺、頭痛などを伴う ⇒脳や神経の病気

- ・ めまいを伴う ⇒耳鼻科の病気

この中で、特に胃腸の病気が原因である場合、汚物の処理には注意が必要です。

嘔吐の原因が食中毒である場合、二次感染の危険性があり、嘔吐物の処理には細心の注意を払ってください。

ノロウイルス、ロタウイルスは非常に感染力が強く、50 倍～100 倍に薄めた塩素系漂白剤（ペットボトル 1 本に対しキャップ程度の割合で薄めたもの）や哺乳瓶用の消毒液などで



なければ消毒できません。また塩素系漂白剤を薄めたものを使用する場合は、作り置きでは効果がありません。

急を要する場合、使い捨てのマスクと手袋を着用し、吐瀉物が乾燥する前にペーパータオルなどで取り除き、ビニール袋に入れて処理してください。



② 水分補給

嘔吐——胃腸炎に伴う下痢や嘔吐の際には、汚物とともに大量の水分が失われます。

こうした水分とは体液であり、水だけでなく塩分も大量に失われており水を飲めばいいというわけではありません。

逆に水だけを飲むことによって、塩分欠乏型脱水症状に陥り症状が悪化してしまう危険性があります。

応急処置の際には、経口補水液を飲ませるなどして、塩分も補給させてください。

水分補給に適した飲料の例

- ・ 経口補水液、OS-1
- ・ ポカリスエット
- ・ アクエリアス
- ・ 麦茶

※糖分を含んだ飲料の大量摂取は容態を悪化させる

可能性があるため避けたほうが良い

熱中症及び 脱水症状の対処

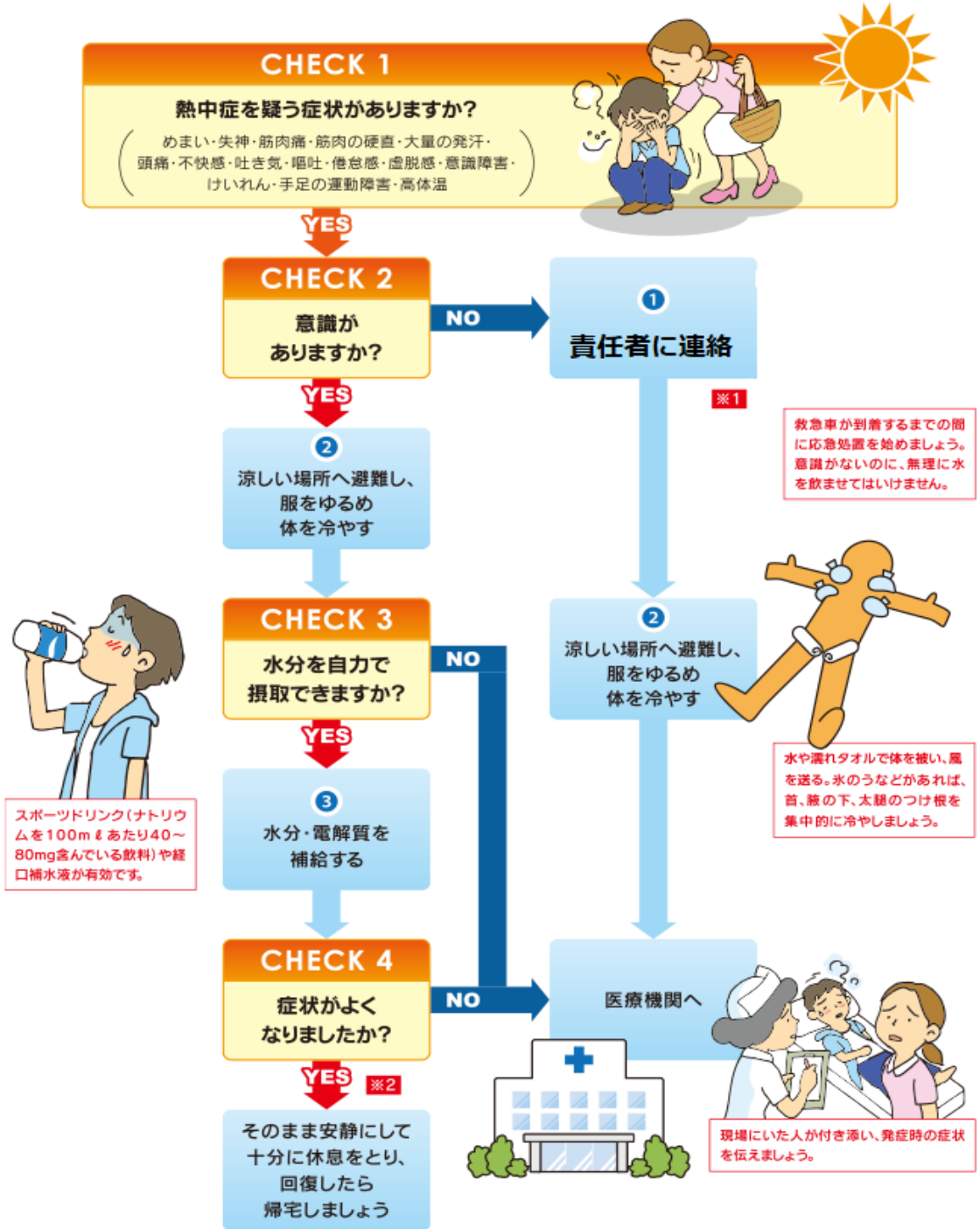
①フローチャート

②熱中症の種類

③熱中症・脱水症状の対処法

① フローチャート

熱中症が疑われる時の応急処置 <フロー>



④ 熱中症の種類

「熱中症」とは暑い環境で生じる健康障害の総称で、次のように分類されています。

【熱失神】

皮膚血管の拡張によって血圧が低下し、脳への血流が悪くなることにより起こります。

(特徴)

- ・めまい
- ・一時的な失神
- ・顔面蒼白
- ・脈が速くて弱くなる

【熱けいれん】

大量に汗をかき、水だけを補給して血液の塩分（ナトリウム）濃度が低下した時に、足、腕、腹部の筋肉に痛みを伴ったけいれんが起こります。

(特徴)

- ・筋肉痛
- ・手足がつる
- ・筋肉が痙攣する

【熱疲労】

大量に汗をかき、水分の補給が追いつかないと、身体が脱水状態となり熱疲労の症状がみられます。

(特徴)

- ・全身倦怠感
- ・悪心、嘔吐
- ・頭痛
- ・集中力や判断力の低下

【熱射病】

体温の上昇のため中枢機能に異常をきたした状態です。

意識障害（応答が鈍い、言動がおかしい、意識がない）の発症、

ショック状態になる場合があります。

（特徴）

- ・ 体温が高い
- ・ 意識障害
- ・ 呼びかけや刺激への反応が鈍い
- ・ 言動が不自然
- ・ ふらつく



③ 対処法

熱中症が疑われる時には、適切に応急処置をする必要がありますが、

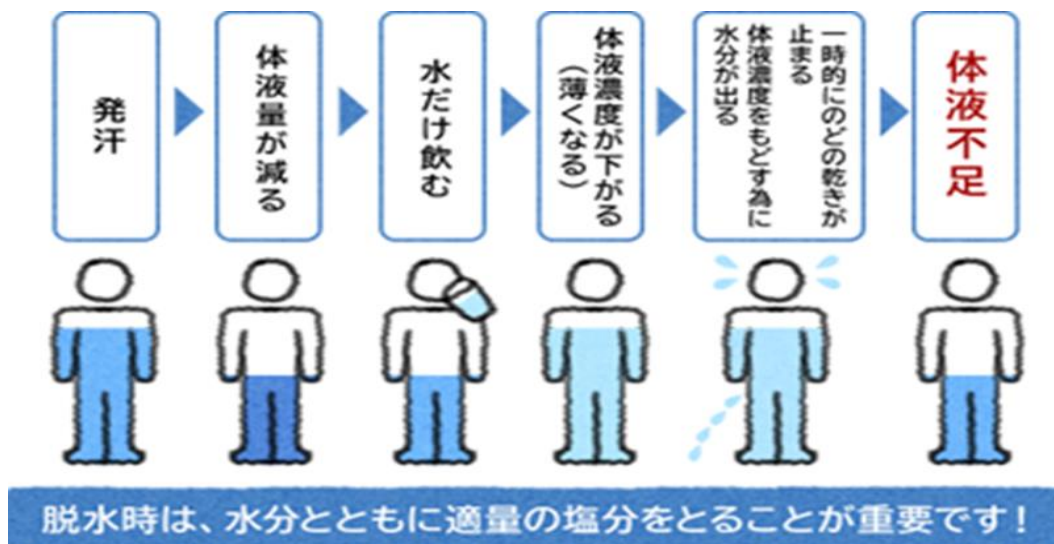
意識がない・意識がはっきりしていない場合はすぐに現場責任者に連絡

しましょう。また救急車が到着するまでの間に現場での応急処置も必要と

なります。

救急車を呼んだ場合もそうでない場合も、現場では速やかな処置が必要です。症状や重症度に関わらず、熱中症が疑われる時には涼しい場所へ移動し身体を冷やすことと、水分と電解質を速やかに補給する必要があります。

※水分の摂取は本人が自力で摂取できる場合に限りです。



【具体的な応急処置の手順】

1 〈涼しい場所へ移動させる〉

風通しの良い日陰や、できればクーラーが効いている室内などの涼しい場所へ移動させましょう。周囲が作業中の場合、接触等の二次災害に十分気を付けて移動してください

18ページ

2 〈身体を冷却する〉

衣服を脱がせたり、きついベルトやネクタイ、下着はゆるめて身体から熱を放散させます。露出させた皮膚に冷水をかけて、うちわや扇風機などで扇ぐことにより身体を冷やします。

氷のうなどがあれば、それを首の両脇、脇の下、大腿の付け根の前面に当てて皮膚のすぐ近くにある太い血管を冷やしましょう。

3 〈水分補給〉

水だけの補給だと、塩分欠乏型脱水症状に陥り症状が悪化してしまう危険性があります。

経口補水液を飲ませるなどして塩分も補給させてください。

水分補給に適した飲料の例

- ・経口補水液、OS-1
- ・ポカリスエット
- ・アクエリアス
- ・麦茶

※糖分を含んだ飲料の大量摂取は容態を悪化させる

可能性があるため避けたほうが良いです

本誌の有効期限について

本誌に記述されている項目は2019年時点のものであり
対処等に変更が生じる可能性を鑑みて1年に一度、
12月開催分の安全プロジェクト内にて内容の確認が必要
となります